

再評価結果（平成28年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課

担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道42号 <small>しんぐう きほう</small> 新宮紀宝道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県新宮市あけぼの 至：三重県南牟婁郡紀宝町神内	延長	2.4km		
事業概要					
<p>一般国道42号新宮紀宝道路は、和歌山県新宮市あけぼのから三重県南牟婁郡紀宝町神内に至る延長2.4kmの自動車専用道路である。</p> <p>本道路は輸送時間の短縮、救急医療活動の支援、渋滞緩和による地域相互の振興と発展に寄与するほか、台風等による土砂災害や地震災害時におけるネットワークを構築し、救命活動や地域復興支援に寄与する道路である。</p>					
H25年度事業化	H-年度都市計画決定 (H-年度変更)	H-年度用地着手	H-年度工事着手		
全体事業費	約210億円	事業進捗率	1%	供用済延長	—
計画交通量	11,600台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	総費用 (事業費/維持管理費)	総便益 (走行時間短縮/走行経費減少/交通事故減少)	基準年 平成24年	
	(残事業)	1.2 150/150億円 (事業費: 147/147億円 維持管理費: 3.6/3.6億円)	180/180億円 (146/146億円 22/22億円 12/12億円)		
感度分析の結果					
【事業全体】 交通量 : B/C=1.1~1.3(交通量 ±10%)		【残事業】 交通量 : B/C=1.1~1.3(交通量 ±10%)		事業費 : B/C=1.1~1.3(事業費 ±10%)	
事業費 : B/C=1.1~1.3(事業費 ±10%)		事業期間 : B/C=1.1~1.3(事業期間 ±20%)		事業期間 : B/C=1.1~1.3(事業期間 ±20%)	
事業の効果等					
①災害時の交通確保					
<ul style="list-style-type: none"> 本路線の現道区間のうち、紀宝町の大部分の区間が津波により浸水し通行不能になると予測。 本路線は十分な高さを確保した計画であり、前後区間を含めた整備により、東南海・南海地震時の津波などによる浸水時には、迂回路、避難路及び避難場所として機能。 					
②交通混雑の緩和					
<ul style="list-style-type: none"> 本路線の整備により、熊野川渡河部の交通が分散、交通渋滞の緩和に期待。 					
③医療施設へのアクセス向上					
<ul style="list-style-type: none"> 本路線の整備により、地域の高次医療施設の中心的な役割を担う二次医療施設である新宮市立医療センターと紀南病院間の搬送時間の短縮（27分→21分）や搬送経路の選択肢増などアクセスが向上。 					
関係する地方公共団体等の意見					
地域から頂いた主な意見等：					
<ul style="list-style-type: none"> 平成27年11月、近畿自動車道紀勢線(熊野市～新宮市間)建設促進期成同盟会(H10.7設立、三重県：熊野市、御浜町、紀宝町 和歌山県：新宮市、田辺市、那智勝浦町、北山村)より早期整備の要望を受けている。 平成27年7月、熊野川河口に橋を架ける会(H16.3設立、和歌山県新宮市、三重県紀宝町、海岸道路の建設を促進する会、架橋虹の会、熊野川河口大橋建設促進議員連盟の各首長及び議長)より早期整備の要望を受けている。 平成27年10月、紀宝町議会(三重県)、近畿自動車道紀勢線建設特別委員会(H25.6設立、紀宝町)より早期整備の要望を受けている。 					
和歌山県知事の意見 ：					
<p>異常気象による災害や南海トラフの巨大地震などの大規模地震に備え、紀伊半島の海岸線を通る唯一の幹線道路である国道42号の代替え道路となる近畿自動車道紀勢線等のミッシングリンク解消が急務であり、その一翼を担う新宮紀宝道路については、対応方針(原案)のとおり事業継続が妥当と考えます。</p> <p>なお、事業実施にあたっては、早期工事着手し、早期供用させるようお願いいたします。</p>					

三重県知事の意見：

一般国道42号新宮紀宝道路は、紀南病院から新宮市立医療センターへの重篤患者搬送などの救急医療活動の支援や、発生が危惧される南海トラフ地震の救援・救助、復旧・復興において重要な道路となることから、対応方針（原案）のとおり事業継続し、一日も早い供用を求めます。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、「一般国道42号新宮紀宝道路」の再評価は、当委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められており、対応方針（原案）のとおり「事業継続」でよいと判断される。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・紀宝町域の現道区間の大部分が津波浸水想定区域。
- ・交通量に大きな変化がなく、交通容量を超過。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成25年度に事業化、用地進捗率0%、事業進捗率1%（平成27年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き事業を推進し、早期開通を目指す。

施設の構造や工法の変更等

事業の実施にあたり、新技術・新工法の活用等によりコスト縮減に努める。

対応方針

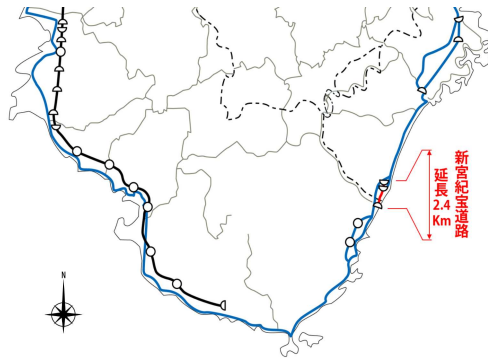
事業継続

対応方針決定の理由

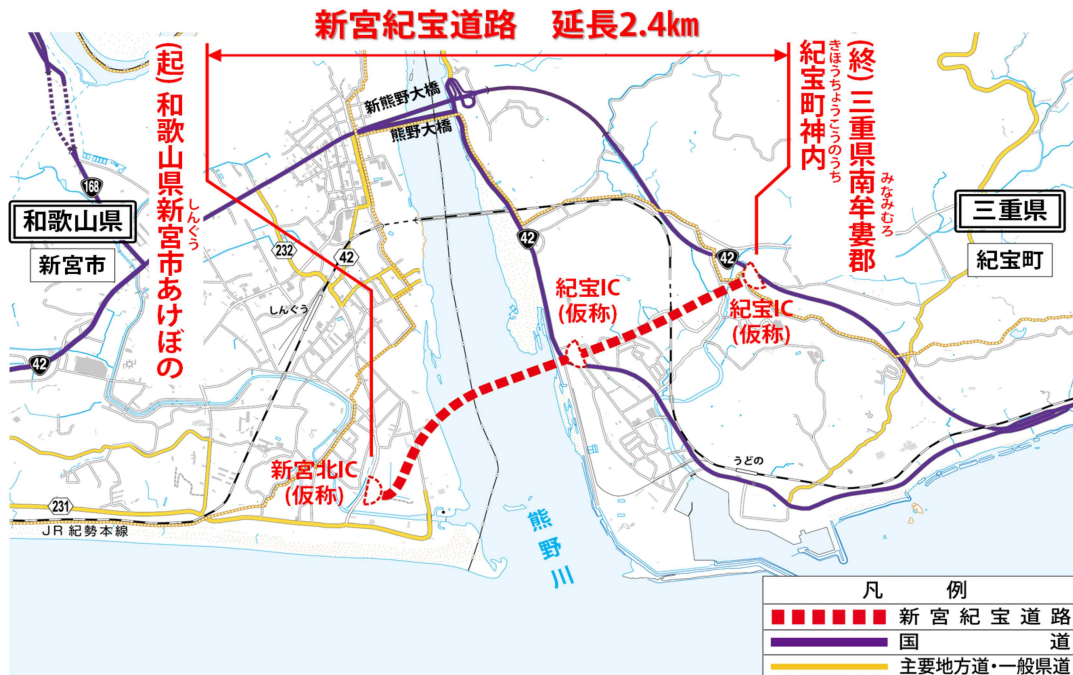
以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図

【位置図】



【概要図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。